

研究・調査報告書

報告書番号	担当
361	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol screening scores and the risk of new-onset gastrointestinal illness or related hospitalization. アルコールスクリーニングスコアと消化器疾患の発症と入院について	
執筆者	
Lembke A, Bradley KA, Henderson P, Moos R, Harris AH	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Gen Intern Med. 2011 Jul;26(7):777-82.	
キーワード	
アルコール、AUDIT、消化器、入院、初発、女性	
要 旨	
<p>目的： 過剰飲酒は肝疾患、上部消化管出血、膵炎などの様々な不健康な事象をもたらす。アルコールスクリーニングスコアに基づいて、消化器疾患での入院と初発消化器疾患の2年間のリスクを測定する。</p> <p>方法： 方法は、後ろ向きコホート研究である。対象者は、質問を回答して24ヶ月追跡された215,924名の男性と9,168名の女性である。診断には3部構成の質問からなるAUDIT-cを用いた(0-12点)。</p> <p>結果： 2年間の消化器疾患による入院は、AUDIT 1-4点に比べて、男性ではAUDIT 5-8点、AUDIT 9-12点はそれぞれオッズ比1.54(95%CI=1.27-1.86)、オッズ比3.27(95%CI=2.62-4.09)であり、女性ではAUDIT 9-12点はオッズ比6.84(95%CI=1.85-25.37)であった。男性では、初発肝疾患は、AUDIT 1-4点に比べて、AUDIT 5-8点、AUDIT 9-12点それぞれ、オッズ比1.49(95%CI=1.30-1.71)、オッズ比2.82(95%CI=2.38-3.34)であり、初発上部消化管出血は、AUDIT 5-8点、AUDIT 9-12点それぞれ、オッズ比1.28(95%CI=1.05-1.57)、オッズ比2.14(95%CI=1.54-2.97)であった。さらに、男性では初発膵炎は、AUDIT 1-4点に比べて、AUDIT 9-12点でオッズ比2.14(95%CI=1.54-2.97)であった。</p> <p>結論： AUDIT-cによる過剰飲酒は、2年間の男女の消化器疾患による入院と男性の初発肝疾患、上部消化管出血、膵炎のリスクを増加させた。これらの結果によりリスクに関する情報が提供され、医師が患者の飲酒量に関する会話に対して根拠がもてるようになるだろう。</p>	